

祝 シクラメン開設20周年

地域とともに
これからも、
そしていつまでも

法人理念 「敬愛の心」
「地域に愛され 地域と共に」



理事長 花田美晴

ご挨拶

高齢者の方が、住み慣れた地域の中で安心と健康な暮らしを得るためには、在宅福祉の充実が重要と考えています。私どもの法人は基本理念に沿って、開設以来、地域福祉の拠点として開かれた運営を行いつつ、利用者の皆様お一人おひとりに満足いただける質の高いサービスの提供に努めてまいりました。



当時の南側庭園（東屋）



竣工式であいさつする
初代理事長 故野村正成氏



入居者を待つシクラメン

まだまだ道半ばでございますが、おかげさまで平成13年10月に開設以来、「特別養護老人ホームシクラメン」「デイサービスセンターシクラメン」並びに「居宅介護支援事業所シクラメン」「在宅介護支援センター（包括支援センター）」が、20周年を無事迎えることが出来ました。これも、ご利用者、ご家族の皆様をはじめ、地域の皆様・関係機関・各種団体の皆様のお力添えのたまものと感謝いたしております。



最初は門扉がありました



また平成16年6月に、恵那市においてデイサービス・ショートステイ・ヘルパーセンター・居宅介護支援事業所を併設した「大井シクラメン」を開設し、平成27年3月には特養の隣に「グループホームしくらめん」を開設することが出来ました。そして、平成28年に飯地町でサテライト型デイサービス事業に取り組み、本年8月にはグループホームの共用型として、認知症対応型通所介護事業を開始いたしております。



大井シクラメン



グループホーム

20年という歳月の積み重ねを大切に、より地域に根差した施設になるよう努めるため、職員一同さらなる研鑽を積み、地域の皆様に愛されながら共存・共感を得られる様、邁進してまいり所存です。今後ともご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人
敬愛会

シクラメン通信

(発行者)

岐阜県中津川市阿木2811の1

社会福祉法人 敬愛会

- ◇清流の国ぎふ健康経営宣言企業登録事業所
- ◇岐阜県新はつらつ職場づくり宣言登録事業所
- ◇岐阜県介護人材育成事業者認定事業所・グレード2



記念の花壇(感謝の石碑)が完成

この度、地域の皆様や設立に貢献された方への感謝の意を込めて、「**二十周年記念花壇**」と「**感謝の石碑**」を整備いたしました。シクラメンは二十年前、ここ阿木の地に、特養養護老人ホームとデイサービスセンター、在宅介護支援センターの施設として誕生しました。地域の皆様には建設当時から大変お世話になり、本当にたくさんの方々のご尽力とお力添えでできあがった施設です。



今でもその思いを全職員が引き継ぎ、地域福祉の拠点となるべく一同頑張っております。そして世代が代わっても、この思いを何か形として後世に残すことは出来ないものかと思案し、今回整備した「感謝の石碑」に辿り着きました。

シクラメンの建設や運営に、これまでいただいた地域の皆様のご尽力ご協力に感謝する思いを込めて、現役員の方々からのご理解と過分なるご厚志を賜り、二十周年という節目の年に建立させていただきますことが出来ました。



石碑の周辺は庭園風に整備し、憩いのスペースや花壇を配置しました。これからも季節に合わせ綺麗な花を植えていきますので、皆様のくつろぎのスペースになればと思っております。

進入路脇のため、来訪者の方は車で通過してしまっても知れませんが、シクラメンへお越しの際には少し足を止めていただいて、季節の花を楽しんでいただけたいと思います。



少し見通しが良くなりました

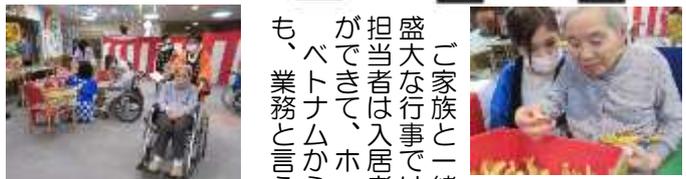
中の島公園から車両とシクラメンから出る車両が、樹木によって双方から見え難い状況でした。職員には、一時停止の標示や朝礼時などで注意を促していましたが、地元の方からの指摘もあり、今回の整備に合わせて雑木を伐採させていただきました。



夏祭り

今年も感染予防のために例年通りの「シクラメン夏祭り」を行う事はできませんでしたが、夏の風物詩を味わっていたら、規模を縮小して、八月二十九日(日)に入居者様と職員だけで開催しました。

それでも今年は特養開所二十周年という節目です。盛大にできなくても担当職員が知恵を絞り、昼の部の夜の部に分けて楽しんでいただく等、記憶に残る企画を用意いたしました。



「ご家族と一緒に楽しむことができる盛大な行事ではありませんでしたが、担当者は入居者の皆様の笑顔を見る事ができて、ホッとしていました。ベトナムからの実習二期生の皆さんも、業務と言うものの日本の夏の風物詩である浴衣を着て、とても嬉しそうでした。」

来年こそは、例年の様にご家族の皆さん、地域の方々、ボランティアの方々のご協力・ご参加をいただきながら、賑やかな「シクラメン夏祭り」が開催できることを心から願っています。



「風食のメニューは夏祭りでは好評だった「五平もち」にさせて貰ったり、館内には輪投げや魚釣り、たこ焼などのミニ屋台村を設置、夕刻からは小規模ながらも花火を職員が打ち上げて楽しんでいただきました。」



開園二十周年記念誌を作成

二十年間の歴史や出来事、各事業所の紹介などを掲載した記念誌を作成しました。開設した頃は、X・JAPANのトシさん・高松英朗さん・高石ともやさんなど、芸能人の方々の慰問もありました。



開園当初のスタッフ

当初の職員からは「懐かしい」の一声ですが、写真を見た現在の若い職員は、「この人がどうして来たんですか?」「歌ったんですか?」「この人誰ですか?」など、意見も様々でした。



高松英朗さん



高石ともやさん



X・JAPAN トシさん

ヘルパーが訪問先に明るい生活をお届けします

ヘルパーが訪問すると、いつも笑顔で迎えてくれます。待っていてくれる喜びを感じる事が出来る瞬間です。



ヘルパーは、介護が必要な方のお宅を訪問し、日常生活での様々なことのお手伝い。それが、必要な介護サービスを行うことと、ご家族の負担軽減にも繋がる在宅介護を支えるサービスの担い手になることを、常に心掛けています。



その為にもヘルパーは、介護や援助に加え、ご利用者本人やご家族とのコミュニケーションを大切に、会話から健康状態や生活面の変化、介護の悩みなどを聴いたり、体調の異変があればケアマネジャーや医療機関と素早く連携しています。



また、日常の中で目標や先の楽しみを持つことがとても大切な事だと思っています。その為にもご本人や家族の思いをしっかり受け止めて役に立つ情報などを提供し、いつも明るい生活を支援できるヘルパーとして、日々取り組んでいきたいと思っています。

～技能実習生あれこれ話～

留学生のフォン君が地元で就職



シクラメンでは、ベトナムから中京学院大学へ留学生として学びに来ていた「ホ・ヴァン・フォン」君に、実習中に習得すべき日本語能力の学習指導をお願いしていますが、実は春先に気を揉んでいました。

それは、卒業後には帰国してしまうのではと心配していたからです。しかし、運よく地元の会社に就職が決まり、さらにその会社のご厚意により、会社の業務の一環として学習指導を続けて頂ける事になりました。

専門の講師の方とは違い、フレンドリーに接することが出来るフォン君の学習指導の継続には、実習生たちも大喜びでした。普段の生活でも相談相手になっていただくなど頼りにしていましたので、学習意欲の励みにもなったようです。

宮田ホームで収穫祭



実習生の宿舎(宮田ホーム)には梅の木と柿の木があり、シーズンになると実習生たちが収穫に忙しいようです。

6月には梅をピンに漬けてシロップを作り、秋の甘柿も楽しみにしているようです。昨年は、施設の下で山栗を見つけたと言い、たくさん拾って来て楽しそうに話してくれた事が思い出されます。

もちろん、自分達で植えた「胡瓜・パクチー・トマト・とうもろこし」などの野菜も、豊作とは言い難い面もありますが見事に(?) 育ち、調理しておいしく食べたとっていました。



虹のキャラバン隊

おいしいトマトをいただきました。地元の皆さんからトマトを沢山いただきました。夏秋トマトは阿木地区が発祥の地として有名であり、生産者の方の努力も詰まっています。とてもおいしいと評判です。ありがとうございます。

